

<彫刻の部>

(奈良県指定有形文化財を重要文化財に)

もくぞうしんぞう 木造神像	20軀
みずはのめのかみざぞう 罔象女神坐像	1軀
だんしんざぞう 男神坐像	7軀
じよしんざぞう 女神坐像	10軀
どうぎようしんざぞう 童形神坐像	2軀

【所有者】 宗教法人丹生川上神社 (吉野郡東吉野村大字小968)

【法 量】 像高 罔象女神 53.2cm 男神 19.9～33.5cm

女神 23.1cm～56.1cm 童形神 23.1／30.5cm

吉野の古社丹生川上神社に伝えられた神像群。主神、罔象女神像はえくぼをつくり歯を見せて微笑する表情で女房装束をまとい左手に宝珠を執る。身体の動きに合わせて自然に流れる著衣の衣文に鎌倉時代の特徴がよく示され、13世紀半ば頃の製作とみられる。当代の神像彫刻の優品である。女神像のうち大型の一体は11世紀に遡る製作とみられ、截金をまじえた表面彩色文様もよく遺る。他にも一对の男女神に童形神が従う一具の像などを含み、当地における平安時代から鎌倉時代の神像の一括資料として注目される。

(平安時代～鎌倉時代・11～13世紀)



罔象女神像



女神像

写真提供：文化庁

<書跡・典籍の部>

(有形文化財を重要文化財に)

げん じものがたり くにふゆほん
源氏物語(国冬本)

54帖

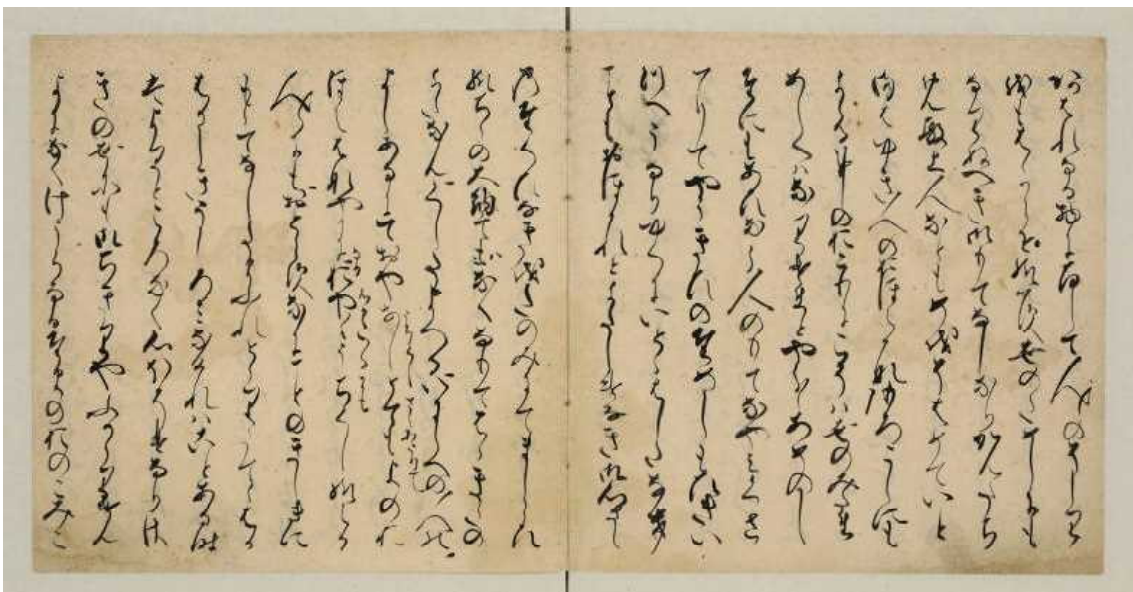
【所有者】 学校法人天理大学 (天理市杣之内町1050)

【法 量】 各 縦 16.4cm 横 16.5cm程度

すみよしたいしや 住吉大社の神官であり歌人でもある津守国冬つもりくにふゆ筆とされる鎌倉時代後期に書写された12帖と、室町時代後期に書写された42帖の計54帖からなる。複雑な錯簡さつかんと大小の脱落が18帖にもおよび、不明な点が多かったが、近年、詳細な調査研究が行われて、錯簡の状態が明らかとなり、全容が把握できるようになった。

本文の系統は平安時代の写本の系統である別本系べつほんとされるが、定家本系ていかほんや河内本系かわちほんも含まれている。別本系の写本として、鎌倉時代後期の写本が一人の人間による一筆にて11帖も含まれている点、源氏物語研究上、価値が高い。

(鎌倉・室町時代・14、16世紀)



天理大学附属天理図書館所蔵 (写真提供：文化庁)

○全国 国宝・重要文化財（美術工芸品）指定件数

種 別	新 指 定 件 数		合 計
	国 宝	重要文化財	
絵 画	0	10	2,053(166)
彫 刻	0	6	2,732(140)
工 芸 品	0	4	2,475(254)
書 跡・典 籍	3	5	1,929(232)
古 文 書	0	8	789(62)
考 古 資 料	1	8	660(49)
歴 史 資 料	0	6	234(3)
合 計	4	47	10,872(906)

(注) 合計欄括弧内の数字は国宝の件数で、内数である。

○奈良県 国宝・重要文化財（美術工芸品）指定件数

種 別	現 在 数	新 指 定 件 数				合 計
		重文から 国宝	未指定から 重文	県指定か ら重文	重美から 重文	
絵 画	90(9)					90(9)
彫 刻	497(76)			1		498(76)
工 芸 品	208(37)					208(37)
書 跡・典 籍	173(11)		1			175(11)
古 文 書	46(1)					46(1)
考 古 資 料	39(8)					39(8)
歴 史 資 料	12(0)					12(0)
合 計	1,065(142)		1	1		1,068(142)

(注) 合計欄括弧内の数字は国宝の件数で、内数である。

(注) 国宝の分割による重要文化財の件数増、種別替えが発生するため、合計欄は必ずしも既指定件数と新指定件数の合計とならない場合がある。